

インクルーシブな 学校づくり Ver.2.1

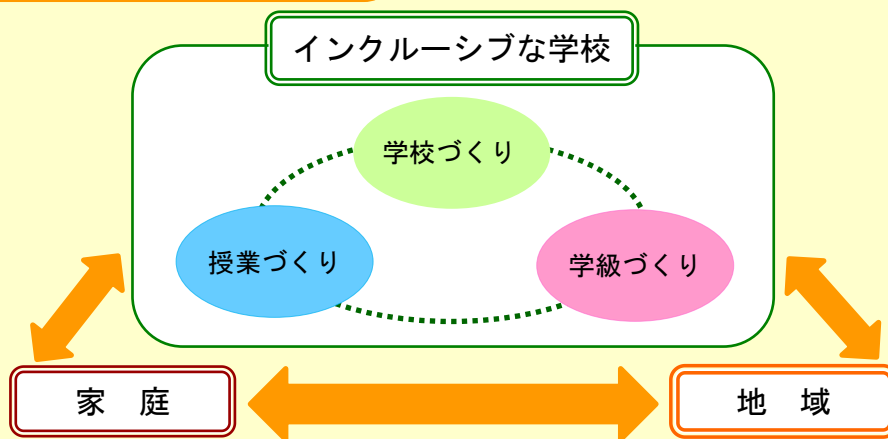
A School for All



- 理想とする学校モデルは一つではありません。子どもたちの多様なニーズに柔軟に応じられる学校づくりを進めましょう。
- インクルーシブな学校づくりは、いじめ・不登校などの未然防止にもつながります。全ての子どもが集団の中で安心して充実した学校生活を送れるようにしましょう。

あなたの学校・あなたのクラスの話です！

共生社会の実現をめざして



実際に取り組まれている
事例を紹介します！

ちょっとした工夫
の積み重ねが大切
です。

できることから、
始めてみませんか？

日々の取組を土台にして

学級づくり

- ・ 集団の中の多様性を前提とした仲間づくり
- ・ 互いに認め合う人間関係づくり、絆づくり
- ・ 心の居場所づくり

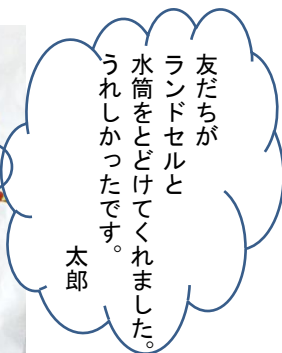
互いに認め合う人間関係づくり、絆づくり

小田原市立東富水小学校では、子どもたちの自信とつながりを育む取組を進めています。教職員が子どもの話をじっくり聴く姿勢を大切に、子ども同士が肯定的に友だちを認め合う場面を積極的に設定していることが大きな特徴です。また、行事の後にアンケートを実施する等、子どもたちの自己肯定感や人間関係を丁寧に把握し、学級づくりにいかしています。

「思いやりが育てるふわふわの木」



思いやりのある言葉や行動を「ふわふわ言葉」「ふわふわ行動」と呼び、子どもたちが葉っぱに書いて貼り付けます。1年間をかけて葉が茂り、立派な木に育っていきます。



「なかまの一首」 ※ 教師によるイメージ作品



友だちの良いところを短歌風に表現して札を作り、百人一首かるたのように楽しみます。お互いの良いところが詠まれるので、自然と笑顔があふれます。

一人ひとりが自信を持つとともに、子ども同士の信頼関係が深まっています。

集団の中の多様性を前提とした仲間づくり

大和市立渋谷中学校には外国につながる生徒が多く在籍しています。生徒が安心して学校生活を送れるよう、日本語指導や学習支援など様々な角度から支援をしています。

実践「4月の学級活動」

全学級において共通理解します。

実践「年間を通した国際平和人権学習」

総合的な学習の時間・道徳・教科の場面で毎年違うテーマで取り組みます。

実践「運動会」

ボランティアの方や、先生のサポートを受け、何度も練習します。

渋谷中の大切な心構え

○文化や考え方の違いを理解し、尊重し合える人になる。

○友達の身になって行動できる温かい集団をつくること。

(生徒への配付資料より抜粋)

○各学級で『異文化への知識、理解を深める』



神奈川県には、たくさんの難民の人たちが暮らしていることが分かりました。

難民だからというより、「平等」に対応する大切さを学びました。



○グループ学習
「なんみんの生活」「日本に暮らすなんみん」

○難民の方による講演会

花はそれぞれ色、形、香りが違いますがきれいです。私たち、一人ひとりも違う存在です。

※国際平和人権学習講演会

運動会の始めに、私たちが、それぞれの国の言葉であいさつをします。



母国語を話すことに自信が持てる大切な場面で、家族も喜んでくれます。



それぞれの個性が発揮されると、自分の存在を実感できるとともに、友だちの良さが分かります。さらに、集団への所属感が高まります。

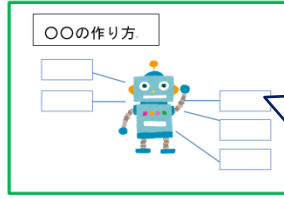
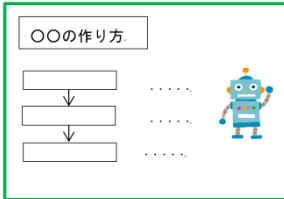
授業づくり

- ・子ども同士が互いに学び合い、伝え合う授業づくり
- ・共に学ぶことで、共に達成感、充実感を味わえる授業づくり
- ・授業のユニバーサルデザイン化

共に達成感、充実感を味わえる授業づくり

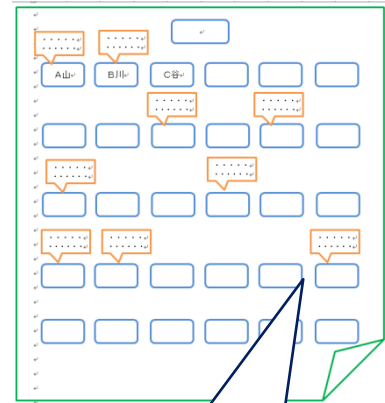
二宮町立二宮小学校では、「一人の100歩より、100人の一歩が学校を変える！」をキーワードに全教職員が連携して授業改善の取組を進め、どの教職員が授業を行う際にも適切な支援を行える体制づくりを行っています。

「様々な様式のワークシート」



複数の様式のワークシートを用意して児童が自分で使いやすいものを選びます。

「教育的ニーズを座席表に」



児童の教育的ニーズを座席表に記載して、教職員間で情報共有を図ります。

「手づくりのホワイトボード」



1班	演劇「大きなかぶ」
★司会	〇〇さん、△△さん
★あいさつ	◇◇さん
2班	合唱「ピリフ」
★司会	〇〇さん、△△さん
★しき	◇◇さん、〇〇さん
●2時30分までに教室に集合してください。	

クリアファイルに方眼紙を挟んだ、手づくりのホワイトボードによって、思考の整理や話し合いの活性化が促進されます。

細やかな支援が、「達成感、充実感を味わえる授業」につながっています。

授業のユニバーサルデザイン化

県立厚木清南高等学校（定時制・通信制）では、すべての生徒にきめ細かな学習支援をするために、ユニバーサルデザインの視点を踏まえた効果的な授業づくりに取り組んでいます。教職員が取り組みやすいように「いつもの授業にちょっとした工夫とちょっとした配慮」（授業のちょっと×2）を授業実践の柱としています。

「『ちょっと×2』カード」

授業のちょっと×2

いつもの授業にちょっとした**工夫**と
ちょっとした**配慮**

チョーク・スライドの文字の色
具体的に はっきりと

繰り返して ゆっくりと話す 簡潔に
見通しの提示 ルビ 肯定的な表現

神奈川県立厚木清南高等学校 定時制・通信制

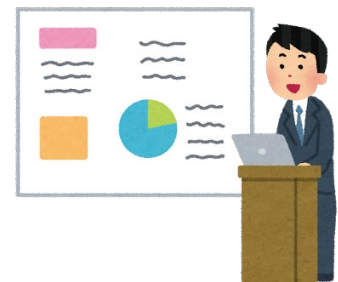
ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり

タブレット端末等を使った授業は生徒の関心が高まります。



生徒が理解しやすくなりました。

より生徒の様子や表情を把握できるようになりました。



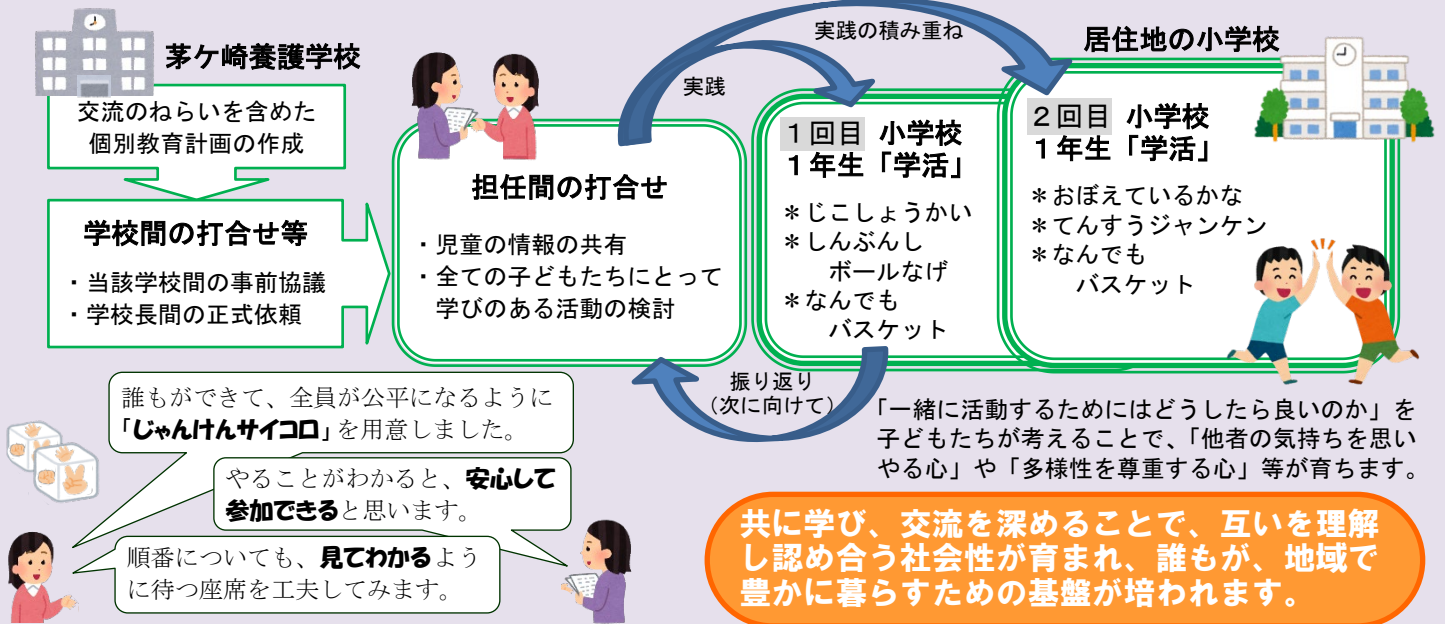
ICT機器等を利用することによって、聴覚情報だけでなく視覚情報も合わせて提示する等、一人ひとりに応じた支援を準備し、生徒の理解を助けます。

子どもの成長を支える地域ネットワークづくり

交流及び共同学習

特別支援学校における居住地交流

県立茅ヶ崎養護学校では、個別教育計画に基づいて計画的・組織的に居住地交流を推進しています。子どもたちは「自立と社会参加」を目指して、特別支援学校において専門的な教育を受けると同時に、居住する地域の学校で学ぶ同世代の子どもたちと交流を深めています。



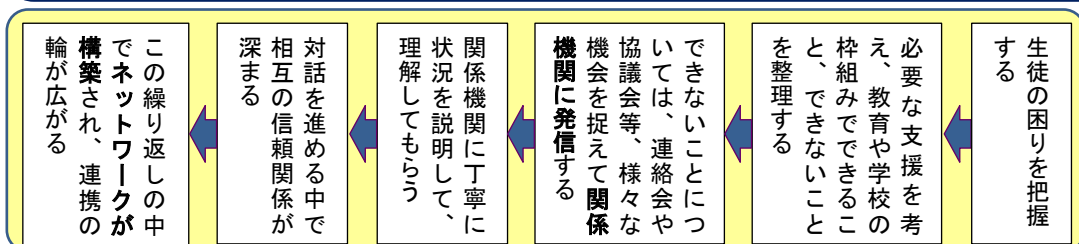
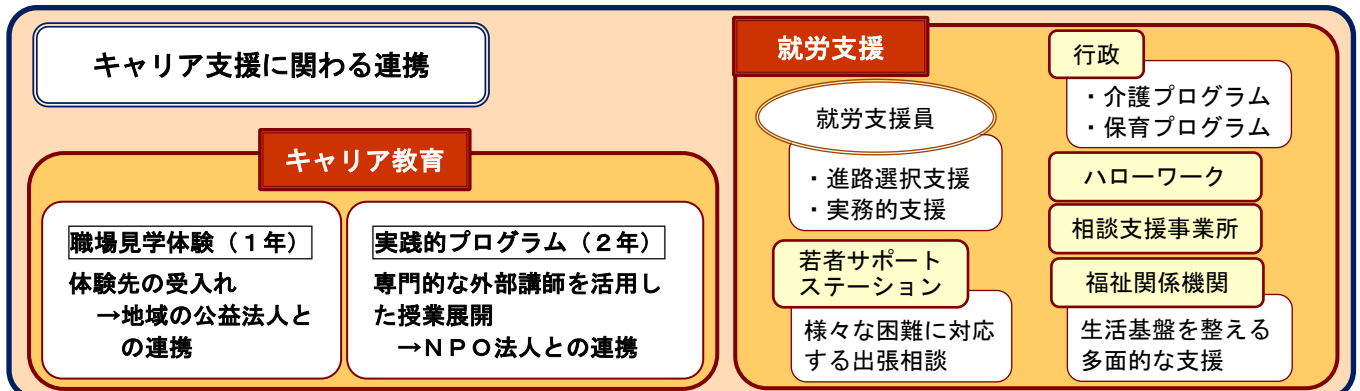
小・中・高等学校等における交流及び共同学習

小・中学校においては、特別支援学級の児童・生徒と通常の学級の児童・生徒の交流及び共同学習の充実が図られ、さらに小・中・高等学校等では、地域の特別支援学校や福祉施設との交流等が行われています。

尚、各校種の学習指導要領「家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携」には、交流及び共同学習の重要性が記載されています。

関係機関との連携

県立田奈高等学校では、様々な困難を有し支援が必要な生徒たちを支えるために、関係機関を活用して、学習支援、生徒支援、キャリア支援、活動支援を行っています。



連携のポイント！



関係機関との連携・協働が進展したことで就労への理解が深まり、就職内定者数が増加しています。

学ぶしくみづくり

できるだけ地域の学校で
できるだけ通常の学級で
できるだけ高校で

共に学び共に育つ

みんなの教室（小・中学校）

「みんなの教室」とは、すべての子どもができるだけ通常の学級で共に学びながら、必要な時間に適切な指導を受けることができるしくみのことです。県内の7校がモデル校として平成30年度まで取組を進めてきました。

「すべての教職員がすべての子どもを育てる」という共通の意識

「みんなの教室」のイメージ（一例）



「みんなの教室」モデル校の取組例

- 交流及び共同学習の充実
- ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善
- これまでの取組の見直しと、取組の意味付け・価値付けの実施
- 子どもの様子や取組の工夫及び困り等についての、教職員間での日常的な情報共有
- 学級・学年・教科等の垣根を越えた協力



これまでのモデル校の取組を参考に、既にある校内支援体制をインクルーシブ教育の視点で見直し、県内全域ですべての子どもを学校全体で支え、できるだけ同じ場で共に学ぶための「多様で柔軟な支援体制」をつくるのが大切です。

子ども同士の自然な関わり合いや学び合い、「みんなが学級の仲間」という意識の浸透など、思いやりの気持ちが生まれ、相互理解が進んでいます。

インクルーシブ教育実践推進校（高等学校）

県立高校改革において、知的障がいのある生徒が高校教育を受ける機会を拡大するため、平成28年度に最初のインクルーシブ教育実践推進校（パイロット校）として3校を指定し、取組を進めてきました。インクルーシブ教育実践推進校は、平成32年度から14校になります。

学校生活全般

- ・教科等の学習、学校行事、生徒会活動、部活動など、毎日の学校生活を共に過ごす



相手の気持ちを考え、分かろうとすることの大切さを実感！

教科等の学習

- ・誰にとっても、分かりやすく参加しやすい工夫された授業
- ・ティーム・ティーチング、リソースルームの活用等、多様な形での指導体制の整備

キャリア教育

- ・将来の社会生活に必要なマナーやコミュニケーション等の学習
- ・関係機関と連携した3年間の計画的な進路指導

相互理解

- ・講演会やワークショップ、多様性の受容や共生社会の実現について、生徒が主体的に考える活動の実施

勉強は難しいけれど、高校は楽しい！



取組を進めることで、子どもの「多様性を尊重する態度」と「互いのよさを活かして協働する力」が育まれています。

共生社会の実現に向けた神奈川県取組

神奈川県では支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向けてインクルーシブ教育を推進しています。

共生社会の実現に向けて

「共に学び共に育つ教育」

昭和 59 年 総合福祉政策の推進のために(提言)より

「支援教育」

平成 14 年 これからの支援教育の在り方(報告)より

個への支援
の充実

- * 教育的ニーズへの気づき
- * 教育相談コーディネーターを軸とした校内支援体制の整備(チーム支援の充実)
- * 特別支援学校のセンター的機能の充実

「共に育ち合う教育」

平成 19 年 かながわ教育ビジョンより

「インクルーシブ教育の推進」

平成 27 年一部改訂 かながわ教育ビジョンより

支援教育の理念のもと、連続性のある「多様な学びの場」のしくみづくりやインクルーシブ教育の理解を図るための取組を進める。
○障がいのあるなしにかかわらず

できるだけ地域の学校で学ぶしくみづくり

みんなの教室

できるだけ通常の学級で学ぶしくみづくり

インクルーシブ教育
実践推進校

できるだけ高校で学ぶしくみづくり

地域で共に生きるしくみづくり

○多様な教育的ニーズに応じた教育の充実

通常の学級 通級による指導 特別支援学級 特別支援学校

～この悲しみを力に、
ともに生きる社会を実現します～

平成 28 年 7 月 26 日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において、大変痛ましい事件が発生しました。

このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。



ともに生きる社会かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日

神奈川県